

2020 年度 G T セミナー

第 54 回保育環境セミナー

2020.9.28 ～ 9.29 前編

第 188 号 2020 年 10 月 5 日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カギャ 奥山卓矢

第 54 回保育環境セミナー

2020 年 9 月 28 日～29 日に第 54 回保育環境セミナーが
新宿せいが子ども園にて開催しました。

全国から約 30 施設の先生方がセミナーにご参加頂きました。
また今回は、G T 初の試みとしてオンライン園見学の同時配信を
行いました。

1 日目 2020 年 9 月 28 日 (月)

10:00～ 新宿せいが子ども園 見学（オンライン見学）

2 日目 2020 年 9 月 29 日 (火)

10:00～ 藤森代表 講演

12:00～ 昼食

13:00～ 「見守る保育」 5つのポイント

14:00～ Q & A

16:00 終了



第54回保育環境セミナー 基調講演『見守る保育の考え方』

保育環境研究所ギビングツリー代表 藤森平司氏（新宿せいが子ども園 園長）

—幼稚園文化と保育園文化—

幼稚園は昔目玉を作ることが多かった。私の子が幼稚園だった。幼稚園に入れるといくつか愕然する。保育園の文化が何だろうと思うことがいくつかある。一番思ったのがお便り帳。うちの場合は、バスの送迎で家の前で乗せる。毎朝、バスが来たら乗せて連れていく。帰りもパッと降ろします。なので、園であったことを聞いたことはありません。もう1つお便り帳が無いので、出席ノートにシールを張ったり、所見欄があり、そこだけが頼りです。「お楽しみ会で、うさぎ役を頑張っていました」と書いてあっただけ。送迎がバスなので、あまり保護者同士と話すことがないが、ある時お便り帳で見るしかないねとなった時に、みんな同じ内容だったことが分かった。私たちが必死にお便りを書いたり、保護者に伝えることを言って、忙しい帰りに伝えていることが幼稚園は一切なくて、園を卒園して小学校へ行っても何の問題もない。何で保育園はこんなに言うのだろうかと思う。2つ目が幼稚園は給食ではなくてお弁当。「お弁当で好き嫌いをなくそうと思わないでください。お弁当は、子どもの好きなものだけを入れて下さい」と言われた。妻がお弁当を作るので、栄養計算はしません。保育園は栄養計算が何かとかしていますが、その給食も本当に良いかです。

—食について—

今度セミナーでお弁当を食べて頂くが、2つあります。1つは野菜中心のお弁当です。2つ目が自然栽培の野菜を中心にしています。カーポラヴォーロのシェフがセミナーが作ります。うちの職員をセミナーに出したことがあるが、コンビニで売っている飲み物の水以外を添加物だけで作った。水以外はできるという話で、日本のコンビニは多く添加物を使っています。添加物入っていても、少ないものを選んだ方がいいです。世界では進んでいて、アメリカでは添加物や遺伝子組み換えで、いろんな病気になっている。発がん性なので、がんやアトピーが多い。アメリカで一昨年裁判が起こりました。裁判の結果、勝訴して何兆円という賠償金を払うことになった。そうすると株が下がり、使っているところも株が下がると会社が大変。日本だったら会社が謝罪をし、今後切り替えるがアメリカはそうしない。いっぱい作って生産しているので、裁判で負けたことのニュースをストップし、一番無頓着な国に売りつけようとする。それが日本に売って、それを日本人がいっぱい食べているらしい。ある州が、今度スーパーのレジの近くにお菓子を置くのを禁止になるように、食について世界が気を付けているんです。日本は早くから給食など整備されている割に、規制していないですね。日本にはスーパーでは、国産が多くなりました。国産は日本で育てているだけで、元々の種がどこの国の種かなんです。日本の種を使えば国産ですが、日本の種を守る種苗法があるが、数年前改訂され、アメリカの種を買うようになっている。私としては運動論で反対するつもりはないと思いますけど、同じものだったら、そういうものを気を付けて食べた方がいいと思います。何で、そういう話をするかというと、現在食べている間は出ないんです。将来出てくるんですね、若い人が気にしないのは、元気だから、風邪を引いても除去すればいいとかいうが、カーポラのシェフはイタリアに行った時に、野菜中心のオーガニックを食べたら、風邪も一切引かなくなって、日本に戻ってきて取り組んでいるが、すぐは分からない。今はいいと思うことが、あとで気を付けないといけないのが幼児教育。

—これからの時代に必要な力—

将来の見通しであって、この方法でどうという事ではないですよ。職員に言うのが、年案を次の年に立てた。今年全く役に立ちませよ。コロナがあると思って立ててないですからね。これからは年案を立てる力ではなく、起きたことに対して対応できる力。どこで災害が起きるか分からない中で、日本が注目しているのが釜石の奇跡の行動ですね。あの行動が奇跡が生んだ。子どもたちがほとんど亡くならなくて、3つくらいポイントがあった。その一つが、マニュアルに頼るな。その時、その時のいう事ですね。一列に並んで、川沿いに逃げるという事をした子は、気の毒ですが亡くなってしまった。とっさの判断という事で、あの時は中学生が小学生の手を引いて逃げた。その時も、助け合うとか、これから必要なことは何が起きるか分かりません。コロナも想像が付きませんでした。起きた、どうしようと困ったとなると鬱になる。これはチャンスだと前向きに、新しい対応を作れるのが、これから必要だろうと言われています。地震や津波が来るかもしれない中で、自分で判断する力を付けていかないといけない時代です。

私からすると、長期見通しです。不足の事態に対処する力をつける。それから時代によって変化するんですが、時代によって変化しないものもあります。それは子どもの発達で、原理原則は変わりません。赤ちゃんが生まれて、AIの時代になっても、100年先でも順序は変わりません。ただ、環境は変わると思います。赤ちゃんがいる場所は変わるとは思います、発達は変わりません。発達を今の環境の中で、どう保障していくかを考えないといけない。昔とは全く違うので、今の環境の中で、子どもの発達を遂げさせることがある。そう言った時に意味のないことは、昔からして来たは意味がない。昔にコロナはなかった。去年そうしていたも、今年は無理。若い人が多いが、実は率先して時代によって変えないといけないのはリーダーで、リーダーの資質。時代を見通して、新しい取り組みをしていくことがリーダー。若い人は柔軟なのでアイデアもある。経験がある人は、何を経験とするか。私の園が民営化されました。公立がだった時に、夕涼み会に招待され保護者がいっぱいいる中で、公立の園長が、新しく引き継ぐ園長がいるので挨拶してもらいましょうと急に振られた。公立の時と変わらないのは、子どもたちへの思いですね。方法ではありません、今年はコロナだったら、どう引き継がないといけない思いを考えないといけない。引き継ぐべき、学ぶべきことを学ばないといけないですし、今の時代として行かないといけない。具体的なことを提案していこうとしている。「見守る保育」というと、見ているだけと思っている人は、見ているだけと思っています。異年齢児保育も、異年齢は、思いやりも育つかもわからないが、年長は年長としてやるべきでないかという言い方をします。それは、その人のイメージ、昔の兄弟のように思いやりを育てるのには効果があるという言い方をします。私が提案したい異年齢は違うんですね。そういうことをきちんと説明しないということで、基本の話しをしたい。メソッドは一つの想いや情緒の考えではなく、研究の成果、研究によってわかってきていること。時代性もある。最近研究が進んでいるので縦割りなので、研究と保育が結びつかないんですね。結びつけないといけないのは現場。例えば、「見守る保育」と言って、子どもがやることを信じて見守っていきましょうという時に、子どもが遊び始める時、遊びは始める。先生は見守っていればいい、それをやめさせない時がある。お集り給食になった、そこに行かせないといけない。その時に、どこまで見守っているかが現場の悩み。いつどう止めさせるか。どうしても制止するしかない。それまでは見守ってできるがせざるを得ない。そう言う切り替えの時、現場で問題ですよ。そうすると研究者は切り替える研究をしている。これが実行機能という機能。それがなかなか保育には言われていない。来年、保育学会が富山で行われるが、その時の基調講演が森口先生。森口先生には、以前セミナーで話してもらったが、研究の中心が実行機能。実行機能は大事なのに、知っている人が少ないのが悲しいという事が関わっているように、研究は研究である。実行機能だけを挙げると我慢させる力。そうすると我慢させたらいいとなるが、きちんとしたことを知らないと表面だけになってしまうので説明します。

—子ども主体の保育—

藤森メソッドは5つあります。本当は10か条にあるのですが、特にというのが、この5つは提案したことです。世界中で言われています。日本で一番言われているのが、子ども主体の保育。私の園を見学する方で、G T園などを知らないで来る人に聞いて見ると、「主体的保育がわからないなら、せいがに行けばいい」というイメージを持っている人が多いようです。子ども主体と昔から言いながら、どうしたら主体的かが難しく、日本で非常に言われています。次に選択性。主体的なことからはじまっているが、ドイツでは主体的な保育の一つとして、子どもたちが参画することがあります。保育に入れていきましょと、いろいろな決定を子どもたちがするやり方を取っています。一番のポイントは、子どもたちがどこで、誰と何をして遊ぶかを、子どもが選ぶことが出来る。給食をどれくらい、何を誰と食べるかを決めることが出来る。これが参画のポイントとしてあげられています。まず何を食べるか、どれくらい誰と食べるかを決めることが出来ます。最初に提案していたミニバイキングですね。それが参画。私たちは主体的というのでしょうか、遊ぶときも、何して遊ぶか、誰と遊ぼうかを子どもが選ぶことが出来る。ドイツでは、0から6歳までが異年齢なので、オープン保育でどこで遊ぶか、誰と遊ぶかも自由。何して遊ぶかも自由。自由というのは、子どもが選ぶことが出来ることが含まれています。お互いが関連し合うのですが、この下は関連する。そういうことをすると、職員が保育者がこのクラスの担任という概念ではないです。どの場所で、何かをしているという役割になります。昔から、オランダのイエナプランというやり方があり、小学校に行って面白いことがあった。オランダは4歳から行けるのだが、読書週間の時に行ったら、各クラスに先生がいて普通の授業は異学年授業で、4, 5, 6歳がークラス。7, 8, 9歳がークラスだが、読書週間の時はいっせいに外に先生が本をもって出て、私はこの本の読み聞かせをしますと先生がアピールをして、聞きたい部屋に子どもたちが入る。私が見ていたクラスがいかつい先生で、読み聞かせの場所をセッティングをして、アピールをしてこれを読みますとしていたが、怖い先生だからか3人しかいなかった。その3人に対して、先生は真剣に読んでいました。子どもたちは胡坐を組んだり、リラックスして子どもたちは聞いていたが、朝のお集りの時に、何をしているかだけを示すことをしています。そう言うように、こうましょという事から関わってきている。チームの考えじゃなきゃいけない。1番が歯がゆいとことで、なかなか理解してもらえない。異年齢は色々な意味があって、1番の根拠が発達・発育の原則をきちんと知っていて欲しい。私達は認知的なことを教える場所ではなく、発達をさせる場所で普遍的なもので原則があります。学校の授業での発達の原則はちょっと違う。私なりに考えた原則は、成長も含めてですが、きちんと押さえると何でのこの方法を取っているか、発達は自らの経験に豊かな心情・意欲を育て、新しい能力を身につける過程です。その環境が大きく、友達や先生の人々の環境、物、場所の環境が言われていますが、環境を通して行うことが指針にも、幼稚園教育要領にも書かれ平成元年の改定で示されました。その時の幼稚園教育要領は、教師は、より良い環境を創造することと書かれています。保育園の人の方が分かりやすいのは、赤ちゃんに寝返りをさせようと教えるのではなくて、移動したい気持ちにさせないといけない。これが心情・意欲・態度ですね。赤ちゃんの興味あるものを置いて、手を伸ばして取ろうとするように教えるのではなくて、欲しそうなものを置いておく。ちょっと手を貸して、ごろんとさせる＝援助をする。指導ではなくて援助。子どもがやろうとすることに、手を添えてあげること。ハイハイも、ハイハイをするような気持ちを持つような環境を作らないといけない。そう言う気持ちを作るための環境を作ること。お楽しみ会で合奏がある。今までだったら。メロディー音の弾き方を教えていましたが、楽譜や楽器を多くして弾こうとする。先生は来た子たちに伴奏するとか、子どもたちが楽しくやった曲を本番でやるとか、教えるのではなくて、いろいろな環境を作っていくことです。それをするために、どんな環境をどうするかを考えることが一番のポイントです。

伽藍堂の部屋で、遊びましょうはおかしいですね。意欲もでないですね。人は先生の存在だけが言われてきたが、そうではない。

—発達の順序性—

それから次の異年齢児の元だが、発達には順序がある。この順序を抜いたり、抜かすと将来ひずみが出てしまう。早期教育という事で、やるべき教育で賛成だが、先に早めにしてしまうことは逆効果。順序を指針では、今をよりよく生きると書かれています。きちんとした順序を踏まえないといけない。年長だから難しいのを切れと言っても、直線切りが出来ないと無理です。それを年長だから作らせようという事ではないという事です。

—発達の連続性—

3つ目は、発達は連続して起きる。昔は発達段階と言って、階段のように言われていたが実は連続している。便宜上年度があるだけで、最近が発達過程というようになっています。必ずしも右肩上がりとは限らないで、それにしても連続しています。年度が替わる3、4月は模様替えをしますが、子どもたちからしたら、次の日になっただけです。同じ連続を小学校まで連続させましょうが今回の指針のポイントです。小学校へ行くと、次の段階になるので仲良くしましょうが幼少連携でしたが、そうではなく、発達を連続して繋げていきましょうということが円滑な連続と言う言い方です。発達は連続して起きるということが3つ目です。

—個人差—

4つ目が、どの子も同じ順序で行きますが、スピードは個人によって違います。今まで概ねの目安で、2歳で排泄の自立と書かれ、個人差が大きいです。2歳で自立ができるのではなく、概ね2歳位でなるけど、個人によっては違うかもしれない。それが脳の中がどう発達していくかというピークが違う。昔は臨界期と言ったかもしれませんが、今は敏感な時期。センシティブティ、聞く力はこの時期が一番敏感な時期と言う言い方をします。どの年齢で、どの敏感期に刺激を与えるかということがあります。

—年齢別保育—

5つ目が、今言ったことと発達にはいろいろな発達があります、身体的発達、情緒的発達、社会性発達、お互いが関係しあって発達します。特に人間は脳を発達させるときには、体の発達をストップして身体が大きくなる時と、そうでない時があるとか、相互的に発達を考えて、お互いが影響し合って発達します。これらを踏まえて、どういう保育かを考えないといけません。年齢別保育です。日本の年齢別は、生年月日で分けている方法です。その方法が、その発達と合わないのではないかと思います。これが、保育の世界に入った時に最初に疑問を持ったことです。教師をやっていた頃、学習指導要領に沿ってやります。学年別に、教科ごとに到達目標が書かれています。1年生の算数は、ここまでと書かれ、学年で構成されています。保育園ははっきりしましたが、卒園までにここまで発達させなさいとしか書かれていません。卒園までの姿しか書かれていません。3歳で何、4歳で何ではなく、順序で発達させることの方が大事ですよ。特に0歳、0歳児クラスで散歩に行くと、走り回る子もいれば、まだハイハイする子もいて、それで行くの？と思います。それを同年齢と言う言い方をしますね。最初えっ！？と思いましたが、脳がどうかという事で考えた結果、2つあります。脳の中は2つの要素があります。1つは成長と言います。大きさ、細かく言うと神経細胞のシナプス、ニューロンが複雑になっていくか、脳の成長がどうであるか。機能、脳の中の色々な場所があります。この機能がどう発達しているか、密度が濃くなるのと同時に、機能が育っていくことが分かってきました。

QRコードからお願いします。